

向学館通信

2005・12・26

新しい年を迎えます。

お正月には、ご家族で、社会問題や子供たちの将来のことを話し合っただけで社会的な意識、生きていく責任などを考える機会にできればいいですね。

年頭に当たって、一年の大まかな計画を考えよう。

『漢検』のテスト準備は万全ですか？

『漢検』の実施日は来年1月28日(土)です。冬休みは漢検の学習に力を入れてください。勉強の仕方は前号でも書きましたが、文字一字一字の意味をしっかりと覚えることが基本です。文字の意味が分からないまま、熟語を覚えようとする人がいますが、これは熟語が増えてくると記憶できなくなります。

漢字は、字そのものに意味があり、その意味の組み合わせで「熟語」が成り立っています。一字一字の意味がわかっていると、はじめてみる熟語でもある程度、意味を推測できます。ところが、熟語を丸暗記しようとする人は、意味の合成などを考えたこともないのです。漢字学習が脳の発達にとって重要なのは、「意味の合成」を理解することにあると思います。どういうことかといいますと、たとえばAという字とBという字がくみあわされてCという意味になります。具体例でいえば、「占」という字と「領」という字が組み合わされて「占領」になります。占は「ひとりじめ」のような意味で、領は領域や領土など「場所」や「エリア」のいみです。二つ合わせて領土を独り占めして支配する、という意味になります。

こんな分かりきったことを、なぜいうのかとお叱りを受けるかもしれませんが、社会の勉強で、こんな「分かりきったこと」をいくつもいくつも説明させられることが多いのです。漢字の意味さえわかっているならば、「民主主義」だって、「地方自治」だって、「投資」だって、なんとなく了解できるようなことばかりです。しかし、こうした言葉が、全く漢字と関係なく、一語一語異なったものとして、丸暗記しようとする子が増えているのです。これでは、覚える用語が多すぎて、社会が苦手になるのは当然です。

このように漢字の意味不明のままに過ごすと、推理や推論という能力がほとんど発達しないように思います。漢字の意味の組み合わせでいろいろと考えることが、日本人にとって、推理・推論の力を養う一つの基礎なのかもしれません。この大事な能力開発の機会を失うのはよくないことです。

どうか、勉強の仕方の基本（一字一字の意味と用例を覚えること）を守らせてください。

公立小・中学校のレベルの低さに甘んじないように

レベルの高い私立中学や公立校の付属中学などの学習内容は、普通の公立中学の学習内容よりかなり難しいし、課せられている問題の量も何倍も多いのです。普通の公立中学では、学習内容は易しいことばかりで、難しい問題はほとんどやりません。このことが、子供たちにさまざまな「悪い影響」を及ぼしています。

公立中学の優秀な生徒たちにとっては、学校での勉強はほとんど分からないことはないようです。つまり、学校では学ぶのに苦労することもないほどです。こういう生徒には、本当はもっと高度なことをやらせて能力を伸ばしてほしいのですが、どちらかという、低きに流れていくことになります。

努力しないでも相当好成绩でいられることに満足して、努力しない生活習慣を身につけてしまう人もかなりいます。これが一番困るのです。さらに、高校では、成績が伸びないまま、やっぱり努力をしないで、大学受験もレベルダウンをしてしまうということにつながります。

普通の公立中学で真ん中以上だからと安心していている生徒たちも、困ったことです。高校段階では、真ん中以下に落ちるのは目に見えています。公立中学は、学ぶことが易しいので、そこそこの成績がとれます。しかし、高校になると易しい問題に慣れた人には、ついていくのは困難になります。このように、中学と高校で学ぶレベルが違いすぎることが、対応を難しくしています。

小・中の段階で、公立学校の水準以上の勉強をしておくことが最善の対策です。